

今月のことば

仏さまの
教えを聞くと
自分の
ものさしが
問われる

(小池秀章)

龍谷大学非常勤講師

こいけひであき
小池秀章

「自分のものさしで問うのではなく、自分のものさしを問う」
(作者不明) という言葉に、出遇ったことがあります。

私たちは常に、自己中心という自分のものさしで、物事を判断しています。人に対しても、「善い・悪い」「好き・嫌い」「敵・味方」など、すべて自分のものさし、つまり、自己中心のものさしでの判断です。「善い人・悪い人」がいるのではなく、自分にとって「都合の善い人」と「都合の悪い人」がいるのです。

しかし、普段は、自己中心のものさしで、判断しているという自覚はありません。自分の判断基準が正しいと思い込み、その判断に順って生活しています。そして、その中で、他人を傷つけ、自らも傷ついているのです。

だからこそ、自分のものさしで問うのではなく、自分のものさしを問うことが、大切なのです。

仏さま(真実に目覚めた者)の教えを聞いた時、自分のものさしが問われます。今まで、無意識の内に、正しいと思い込んでいた自分のものさしが、自己中心のものさしであったということに、気づかされます。

ただし、それに気づかされたからといって、自己中心のものさしを、捨てることが出来ないのが、私たちなのです。ただ、自己中心のものさししか持てない自分であったと知らされた時、そこに違った生き方が、生まれてくるのです。

仏さま(真実に目覚めた者)から見たら、どのような世界が開けてくるのか、しっかり聞かせていただきます。合掌